



農薬散布用の大型ドローン。
人力やヘリでの散布よりも人
手、コストが削減できると話す
齋藤一志代表取締役。

株式会社まいすたあ

海外の農業に追いつけ！追いつけ！

三川町の「株式会社まいすたあ」では、ほ場の拡大を行い、最先端農業技術を活用して稲作を行っている。

齋藤一志代表取締役は、ほ場の大区画化、大型機械化、最先端技術の導入が進み、作業効率の向上、所得の向上へと繋がっている海外の農業経営に衝撃を受けた。「海外にできて日本にできないはずがない」と思い、海外のようにほ場を拡大し、さらに学識経験者と共同で乾田直播やRTK、GNSSによる自動操舵システム、水田センサーを活用したほ場の水管理などの新技術を実践し、最適な栽培方法を模索している。

現在の日本の農家は減少する一方である。いつかは技術を確立させ、海外のように儲かる農業を実現し、伝えていくことで、農家の減少に歯止めをかけ、日本の農業を発展させたい。と話している。



株式会社まいすたあ 企業理念

- ・新しい農業の形を実現し、農業を誇れる職業にする。
- ・儲かる農業を実現する。
- ・地域に必要とされる企業となる。

自社で保有する加工場や精米工場では米の精米や、餅、バックライスなどを製造しており、三川町のふるさと納税返礼品にも活用されている。

『大区画ほ場が できるまで』



1 畦畔除去作業

水田に水を溜めるための囲いを畦畔という。これを、バックホウなどで除去し、平らにする。

4 大区画ほ場完成

赤枠囲み部が大区画を実施したほ場。7枚のほ場を1枚(約2.1ha)に拡大。



2 耕起作業

スタブルカルチという機械で、土を反転させ、その後、ハローという機械を使い、土を細かく砕く。



3 均平作業

レーザ装置で自動制御できるレーザーレベラーという機械で、水田を均す。



乾田直播とは

グレーンドリルという機械を使い、乾いた状態のほ場に、種子を播く。

R T Kの自動操舵システムを活用し、誤差1.5cmの等間隔で播くことが可能。

**経営規模拡大を実現する
乾田直播**

大区画したほ場では、「乾田直播」という手法に挑戦している。畑状態の田に種子を播き、苗立ちした後に水を入れる直播の方法である。

農家が減少していく中、農地を維持していくには、一人あたりの経営規模を拡大することが求められる。乾田直播では、水稲移植栽培と比べ、育苗を行う必要がないことや、広範囲を高速で種播できることなどにより、少人数で広い面積の作付けが可能になる。

齋藤代表取締役は、乾田直播をすると、根が伸び、稲が丈夫になるため、風の強い庄内平野でも負けずに育つと話している。

株式会社まいすたぁ

お問い合わせ先

〒997-1311 山形県東田川郡三川町大字青山字外川原 192-1

TEL0235-66-5138/FAX0235-66-5139 HP: <https://www.mistar.co.jp/>